

## 「小電力の無線システムの高度化に必要な技術的条件」のうち「特定ラジオマイクの高度化に向けた技術的条件」の審議について

### 1 審議開始の背景

特定ラジオマイクは、放送番組制作やコンサート、舞台劇場、イベント会場等で用いられる高音質型のワイヤレスマイクの無線局であり、平成20年2月末現在、我が国においてアナログ方式により約1万8千局が開設・運用されている。

近年、高度な音響効果を伴うコンサートや大規模なイベント等、多くのワイヤレスマイクを使用する場面が増加し、更なる利用が期待されているが、デジタル技術の発達により、小型で音質の劣化がなく、周波数の利用効率の高い音声伝送機器の開発が見込まれるところとなっている。

このような背景を踏まえ、高い音声品質を確保しつつ、同一場所におけるより多くのワイヤレスマイクの利用を確保する等のため、特定ラジオマイクにデジタル方式を導入するための技術的条件について検討を行うものである。

### 2 審議内容

特定ラジオマイクの高度化に向けた技術的条件

### 3 審議体制

既存の小電力無線システム委員会（主査：森川 博之 東京大学教授）において審議を行う。

### 4 答申を予定する時期

平成 20 年 7 月頃

### 5 答申が得られたときの行政上の措置

関係省令等の改正に資する。

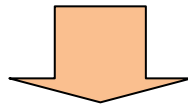
(参考資料)

## 現 状

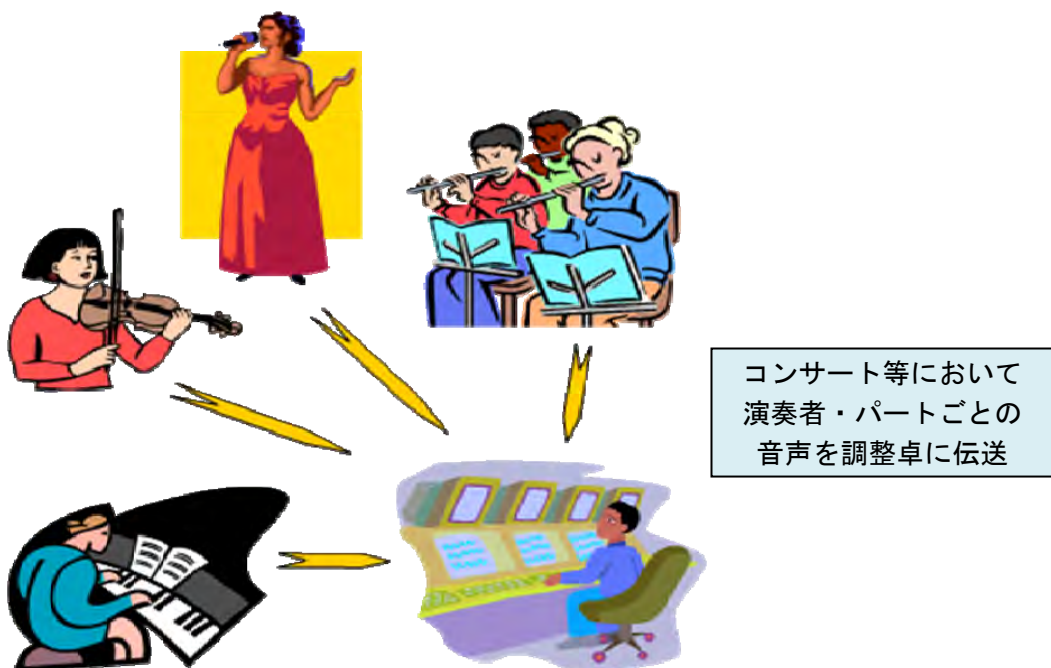
- 特定ラジオマイクは、放送番組制作やプロ歌手のコンサート、舞台劇場、イベント会場等で用いられる高品質型のワイヤレスマイク（平成20年2月末現在約1万8千局。いずれもアナログ方式）。
- 高度な音響効果を伴うコンサートや大規模なイベント等、同時に多くのマイクを使用する場面も増加。これら特定ラジオマイクのさらなる利用増・チャンネル増の要望に応える必要がある。

## デジタル方式の導入と課題検討

- デジタル方式の導入により
  - ・ 同エリア（スタジオ・コンサートホール）で同時使用が20本 → 30本～50本以上
  - ・ 同じ周波数の隣接使用距離が約300m → 150m以下  
等が技術的に可能



所要の音声品質、周波数利用方法（チャンネル配置）等について検討



【特定ラジオマイク利用イメージ図】